

取扱説明書及び部品表

Takakita マニアスプレーダ

DH3071



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**マニアスプレッダ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

！ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある**！**表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

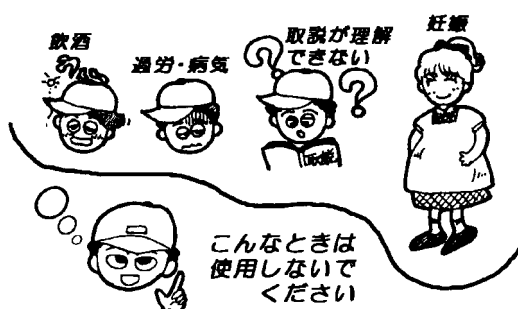
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

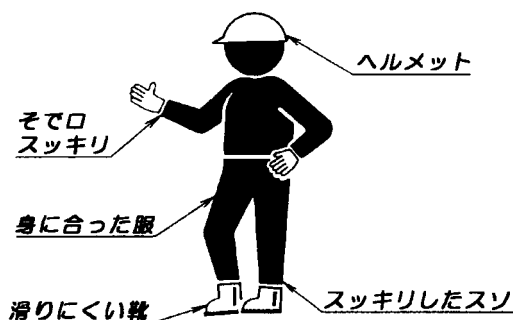
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には牽引・装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力と装着方法

型 式	適応トラクタ kW(ps)	装 着 方 法
DH3071	25.7～58.8 (35～80)	固定ヒッチまたは スイングドローバー 牽引

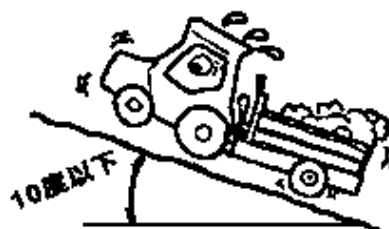
● PTO回転速度 : 540min⁻¹(rpm)



(4) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。

型 式	最大積載量	
	平 地	傾斜地 (最大傾斜10度まで)
DH3071	3000kg	2400kg

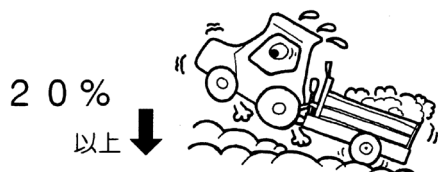


！安全に作業するために

(5) 装着時の前後のバランス確認

トラクタはトラクタ総重量の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。

もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着しないでください。



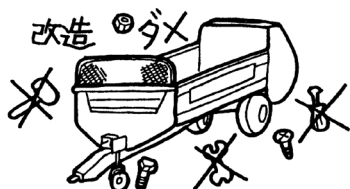
(6) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けないでください。

(7) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(8) 使用目的以外への使用禁止

堆肥の散布を目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

(9) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

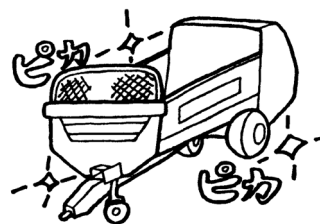
(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でPTOを切り、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも機械を常にきれいに維持してください。



⚠ 安全に作業するために

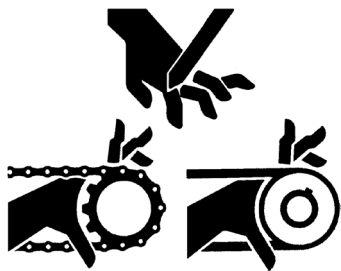
(5) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(7) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。



(8) タイヤの点検・修理をするときは

- ①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店へご依頼ください。



(9) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

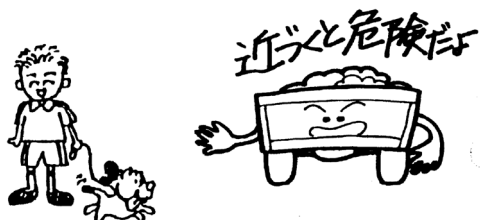


⚠ 安全に作業するために

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

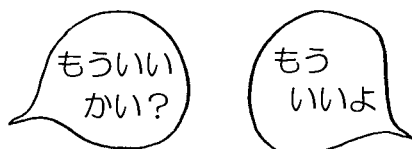


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触れないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(5) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



(6) 散布作業するときは

散布作業中は後方に堆肥が10m前後飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(7) キャビンなしのトラクタに

装着して作業する場合

堆肥が飛散し、目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用してください。



(8) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

⚠ 安全に作業するために

(9) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。

- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

(10) 回転中のユニバーサルジョイントには

触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ傷害を負うことがあります。



(11) 回転中のビータやコンベアバー・

コンベアチェンには触れない

回転しているビータやコンベアバー・コンベアチェンに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



(12) 移動及び作業の旋回のときは

トラクタに本機を牽引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。

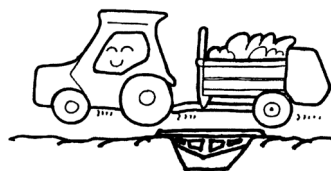


内輪差あり

(13) 溝や畦を横断したり

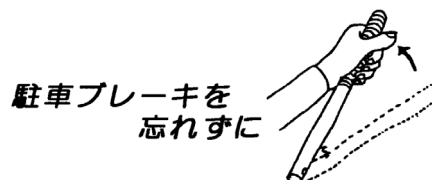
軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(14) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停止し、PTOを切りエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。



(15) 高圧油に注意してください

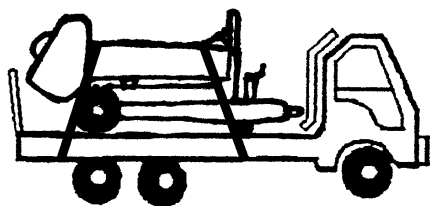
- ①高圧油による傷害を防止するために、配管・ホースなどの取外し前には、必ず圧力を抜いてください。
- ②圧力をかける前に、配管・ホースなどは正しく確実に締付けてください。
- ③非常に小さな穴からの漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で漏れを探すことはやめてください。必ず、紙などを使用してください。
- ④火傷やケガなどを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。



⚠ 安全に作業するために

4. 作業・移動をするときは

- (1) トラックなどへの積み込み・降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 公道走行するときは

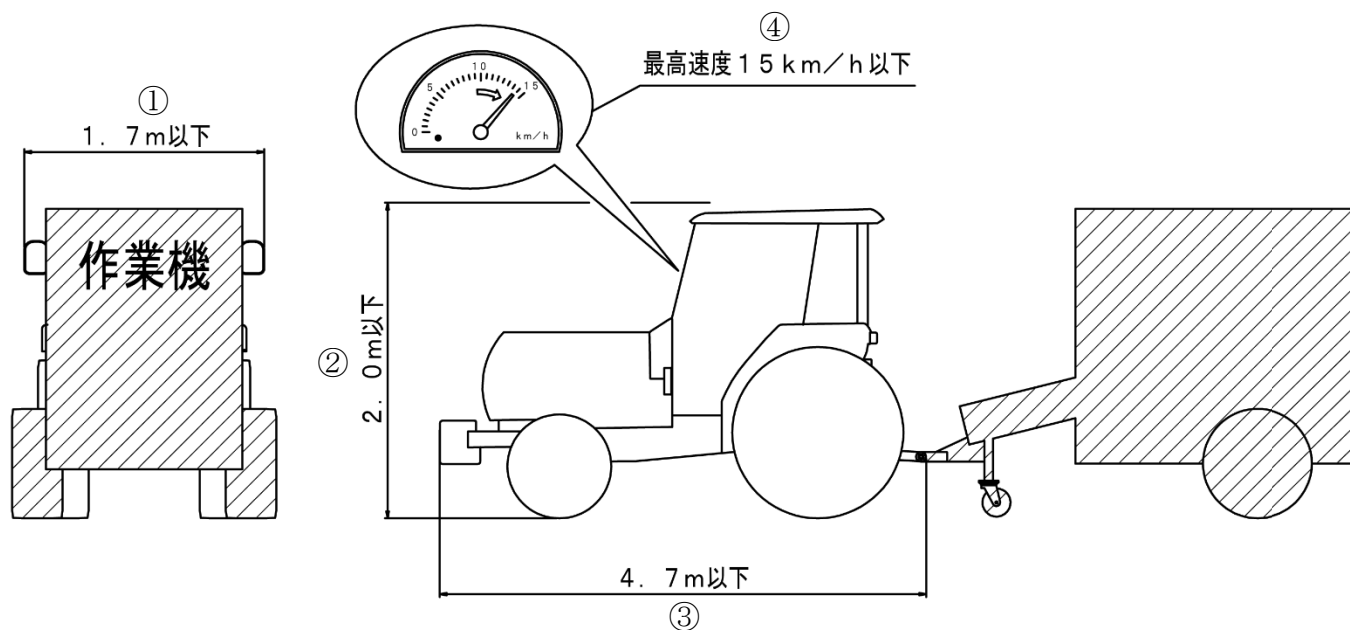
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。ただし、車両総重量750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許(農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。





安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が2.5mを超えるもの ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが12mまたは全高3.8mを超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが12mまたは高さが3.8mを超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

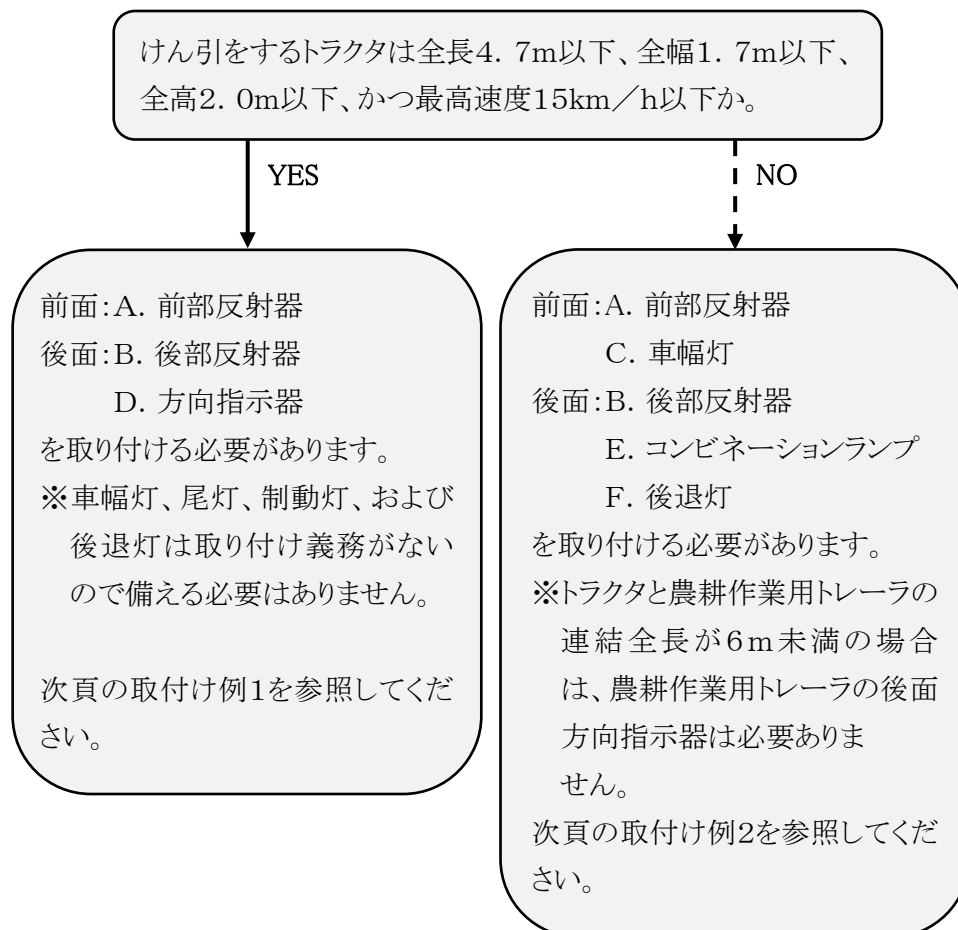
※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

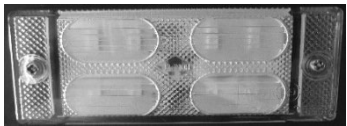
⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置



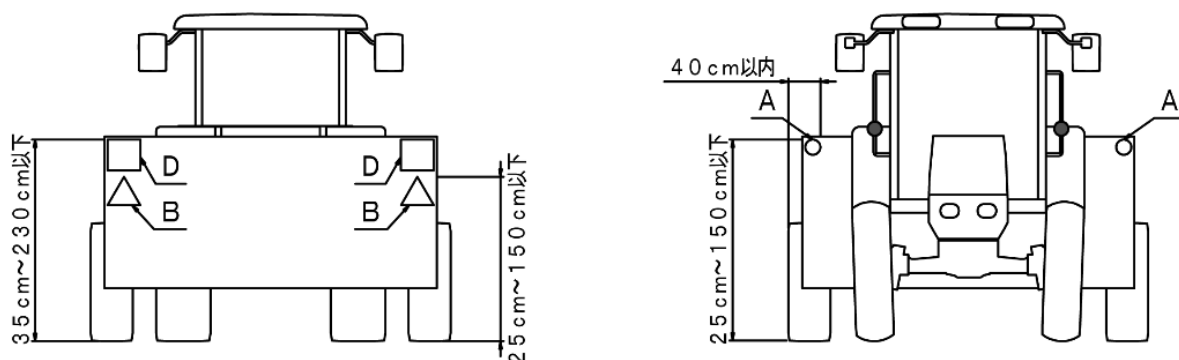
A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

⚠ 安全に作業するために

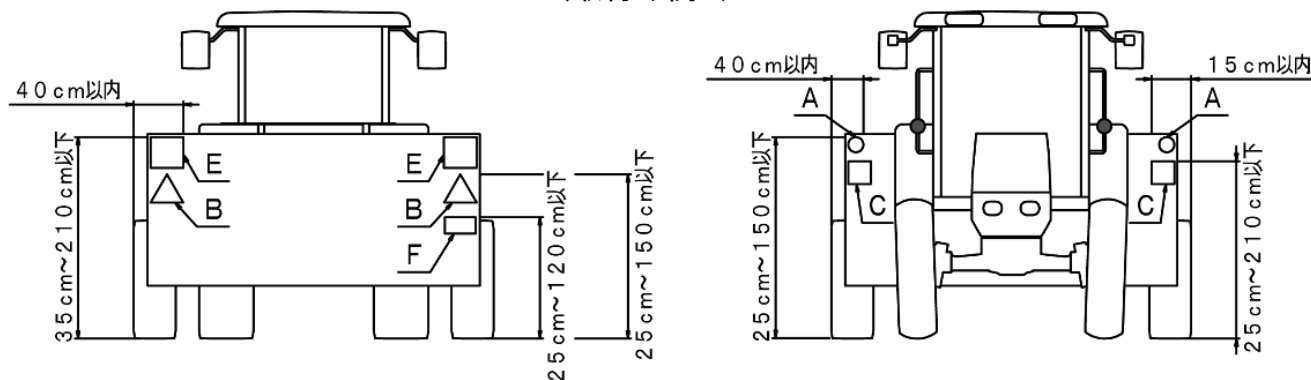
● 装備の取付け位置

- ・ 道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。
 - 前部反射器(リフレクター) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
 - 後部反射器(リフレクター) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
 - 車幅灯(ポジションランプ) 最外側から15cm以内、高さは地上25cm以上210cm以下
 - 方向指示器(ウインカー) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
 - 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
 - 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
 - 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm 以上120cm以下
- ・ 車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ コンビネーションランプは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ 後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

(取付け例1)



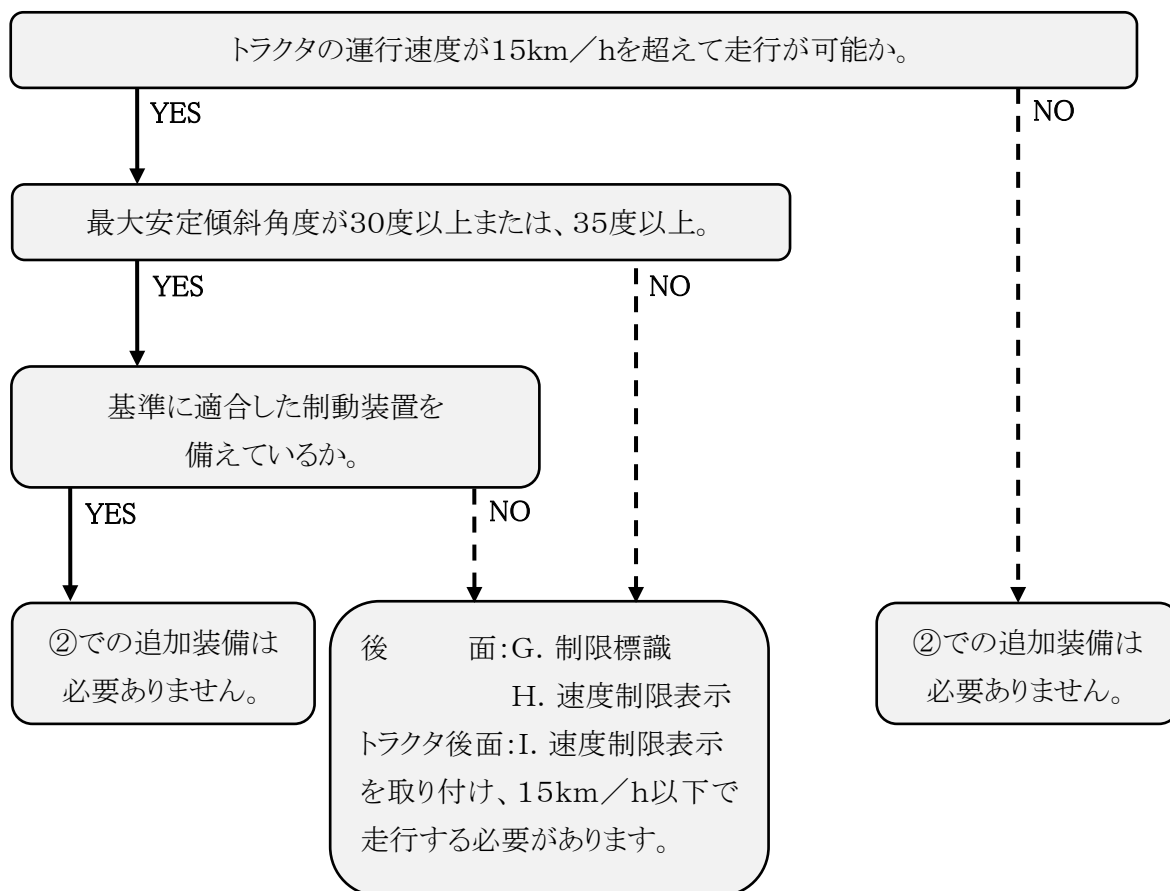
(取付け例2)



⚠ 安全に作業するために

安全に作業するために

②トラクタの運行速度



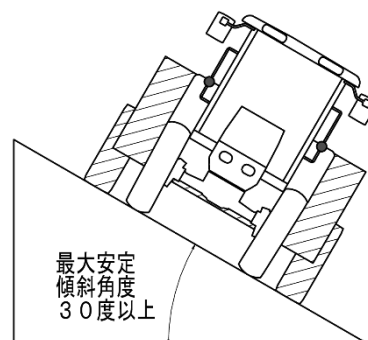
●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上（車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの）であれば、通常の方法で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

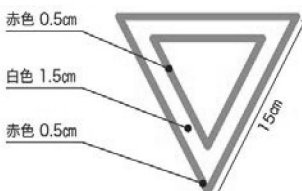
- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
Hを作業機後面に表示、
Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。



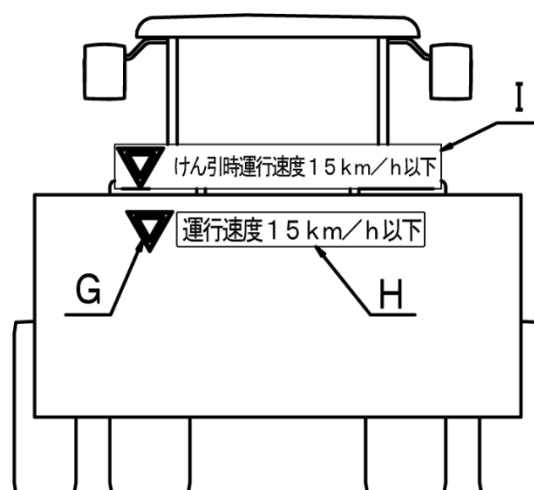
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

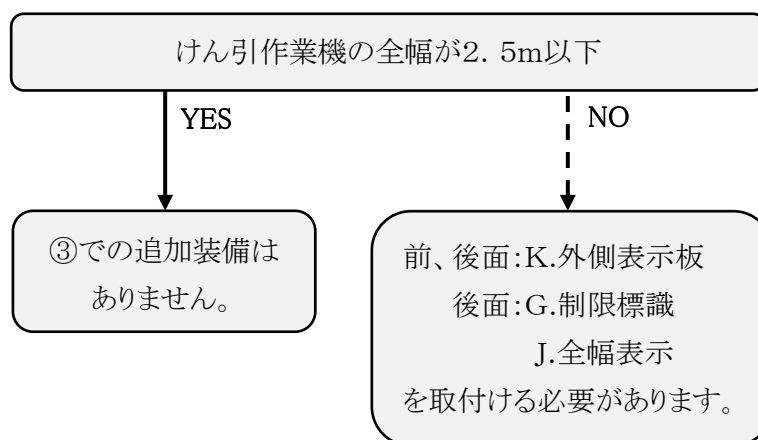
- ・G、H、Iは後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・Iは運転席にも表示する必要があります。

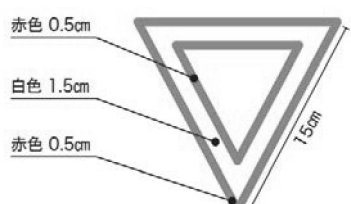
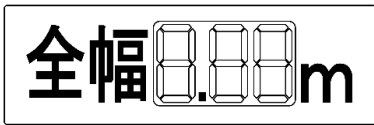
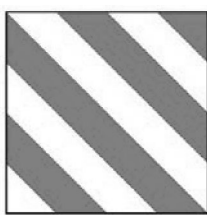
G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
	
I. 速度制限表示（トラクタ側）	
	

（取付け例）



③ 作業機装着時の全幅



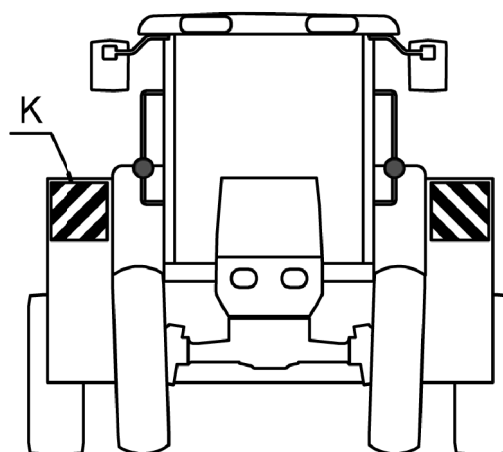
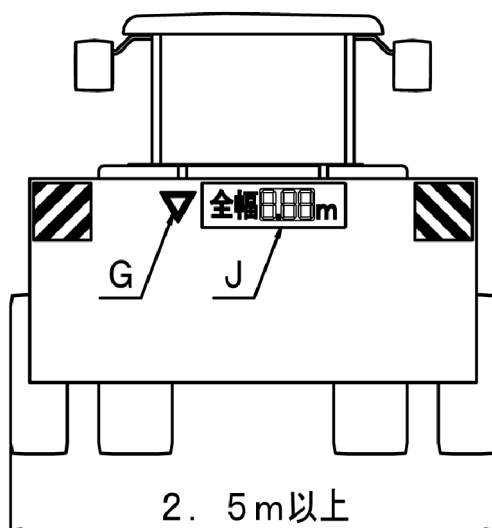
G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板
		

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

- ・ G、Jは後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ Kは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア)
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ)
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ)

灯火器・ステッカー

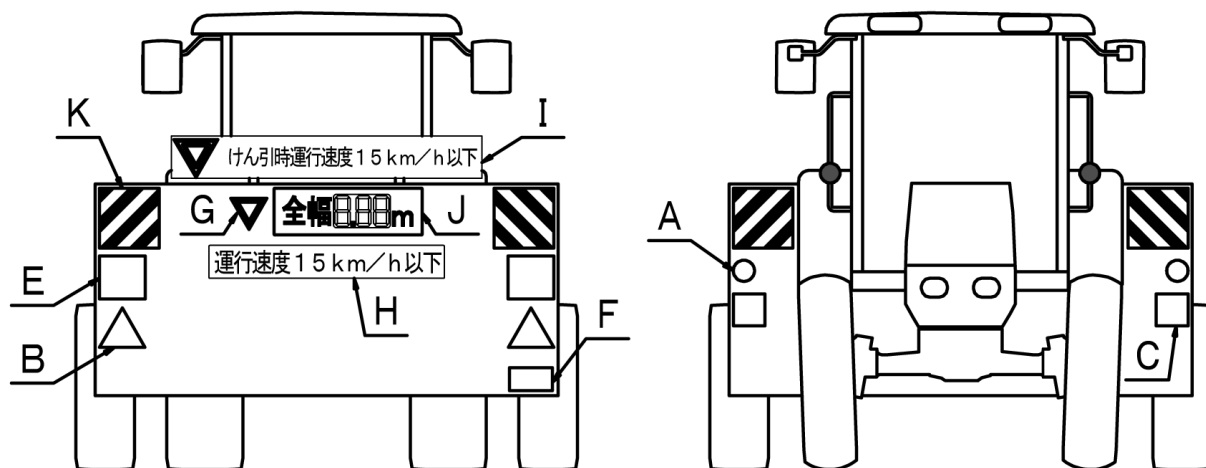
A. 前部反射器	B. 後部反射器	C. 車幅灯	D. 方向指示器	E. コンビネーションランプ
F. 後退灯	G. 制限標識	H. 速度制限表示 (作業機側)	I. 速度制限表示 (トラクタ側)	
J. 全幅表示	K. 外側表示板			

※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道:地方道路局、県道:各都道府県、市道:各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

- p.11「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

例：(ウ)に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除してください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。

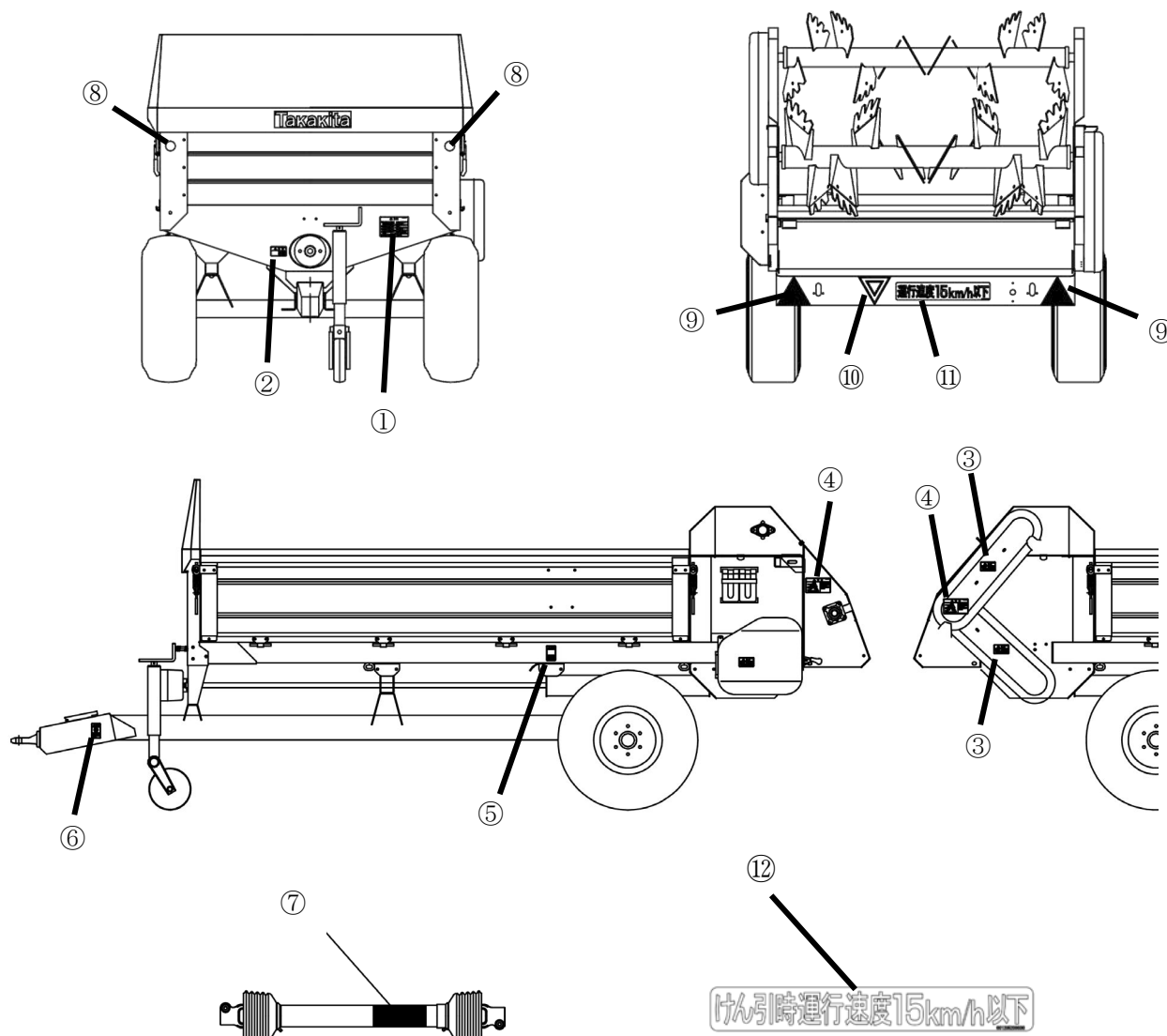


セーフティチェーン

詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

⚠ 安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置



① 部品コード 001204501330

② 部品コード 001206000610

001204501330

注 意

1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 保安基準を満たさない限り公道走行はできません。
---	---

001206000610

警 告

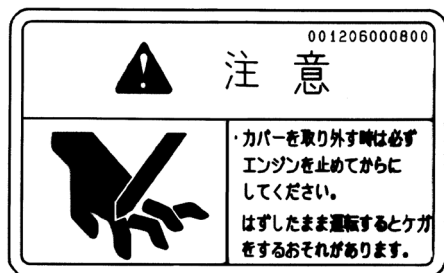
巻き込まれてケガをする恐れがあるので回転中は近づかないでください。

カバーは、常に装着してください。

⚠ 安全に作業するために

安全に作業するために

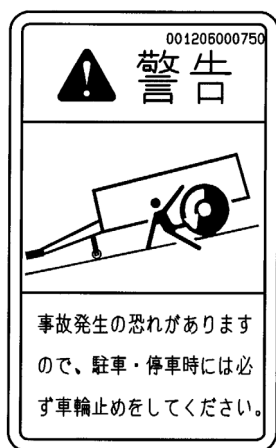
③部品コード 001206000800



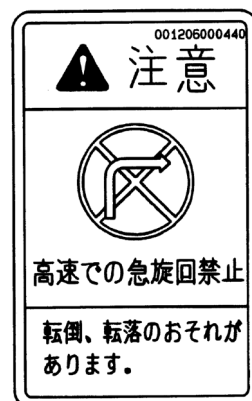
④部品コード 001206000250



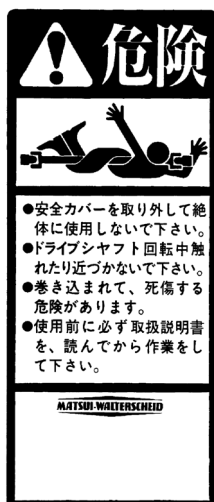
⑤部品コード 001206000750



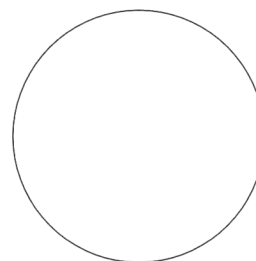
⑥部品コード 001206000440



⑦部品コード 001306951010

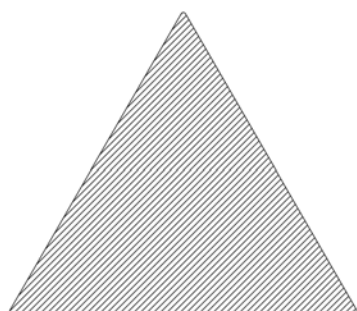


⑧部品コード 001206002280

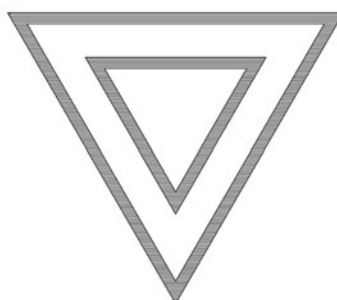


⚠ 安全に作業するために

⑨部品コード 001206002340



⑩部品コード 001206002260



⑪部品コード 001205200050



⑫部品コード 001205200030



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

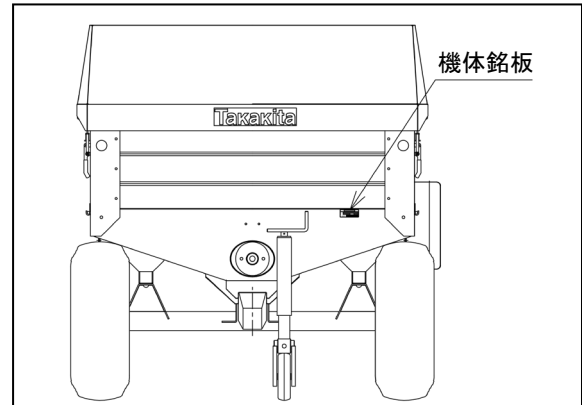
本製品の使用目的について

本製品は、牛糞などの堆肥を散布する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

（機体銘板貼付け位置図）



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No.（S E R－N o）
- ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？
（約〇〇アール、または約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

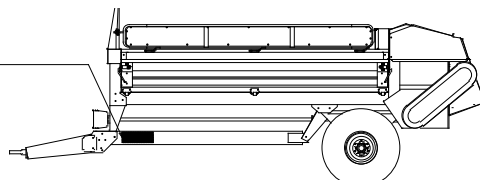
【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	マニアスプレッダ		
型式			
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

車台番号について

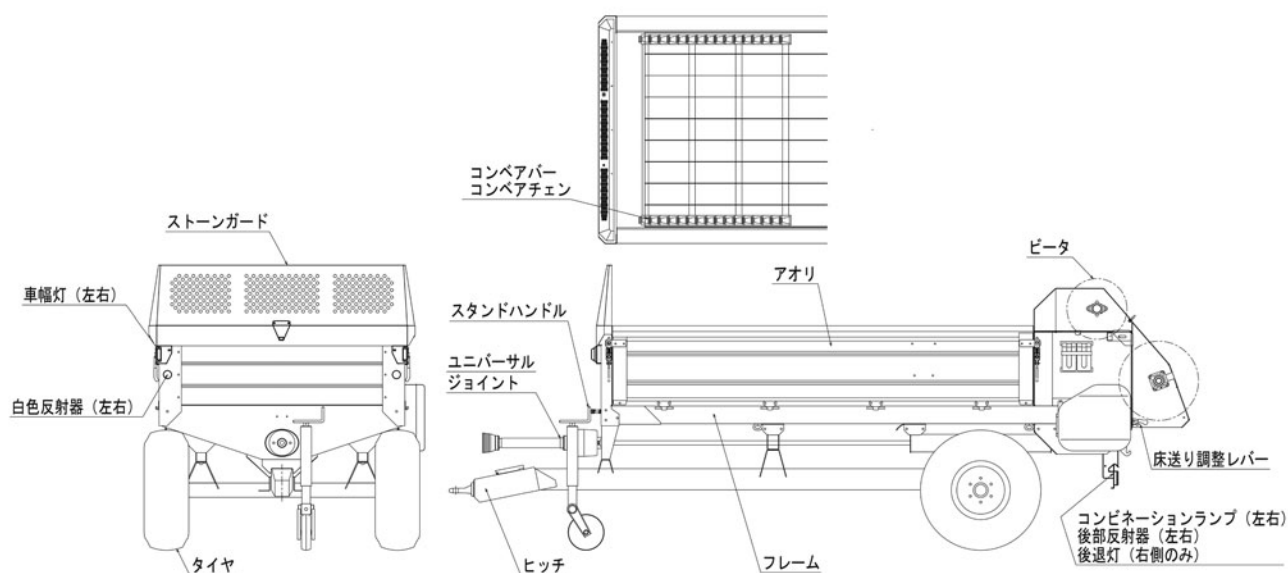
本製品には、上記機体 No. と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。
打刻位置と打刻形式は次図を参照してください。

車台番号打刻位置
ケンインフレームの
左側面前方



車台番号
DH3070-*****

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き	参照ページ
フレーム	全体の構成を保持する	—
ヒッチ	トラクタの固定ヒッチ・スイングドローバーに連結する	21
ユニバーサルジョイント	トラクタのPTO軸の動力を本機へ伝達する	22
スタンドハンドル	ヒッチの高さ調整を行う	21
ストーンガード	トラクタへの堆肥・小石等の飛散を防止する	—
アオリ	荷台の側面を形成し、掃除・荷の積み降ろし時に開閉できる	—
タイヤ	車輛の荷重を支えて回転移動する(低速走行用)	31
コンベアバー・ コンベアチェン	堆肥を後ろへ搬送する	31
床送り調整レバー	堆肥の散布量を調整するレバー	25
ビータ	堆肥を散布する羽根	—
車幅灯(左右)	尾灯と共に点灯するランプ	9
白色反射器(左右)	白い円形の反射器	9
コンビネーションランプ(左右)	ウィンカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプ	9
後部反射器(左右)	赤い正立三角形の反射器	
後退灯(右側のみ)	後退するときに点灯するランプ	

トラクタへの装着

⚠ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- トラクタへの装着時にはトラクタと本機をまっすぐな状態にして行ってください。
また、二人以上の共同作業ではお互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に取り付けてください。

以上のことを守らないと障害発生のおそれがあります。

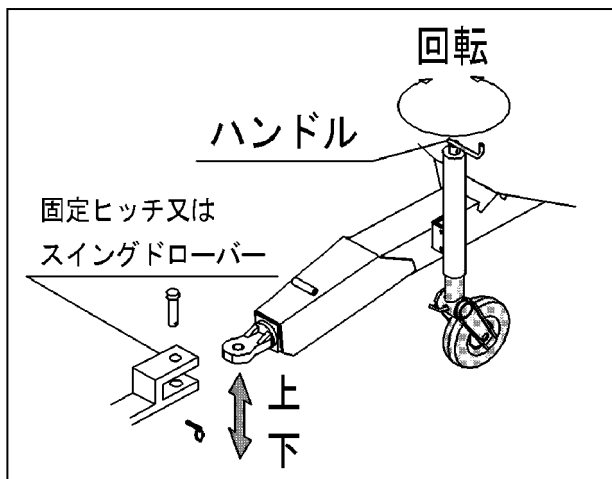
1. トラクタへの装着のしかた

◆固定ヒッチまたは

スイングドローバーへの装着のしかた

本機のヒッチをトラクタの固定ヒッチまたはスイングドローバーと同じ高さになるようにハンドルを回して調整してください。

スイングドローバーを使用されるお客様は、スイングドローバーをトラクタのセンターになるように固定し、上記の作業を行ってください。

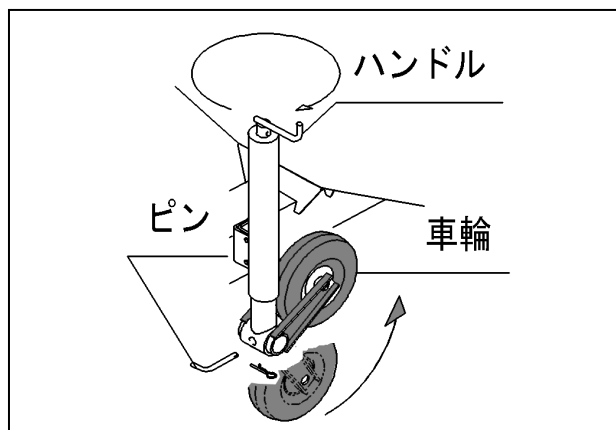


本機のヒッチの穴と、トラクタのヒッチの穴を合わせてピンを入れ、リンチピンまたはRピンでピンが抜けないように固定してください。

◆車輪の格納

トラクタと本機の連結ができれば、ハンドルを回し、車輪を少し浮かせ、ピンを抜き、車輪を上げ、再度ピンをセットしてください。

車輪が固定するまでハンドルで車輪を上げてください。

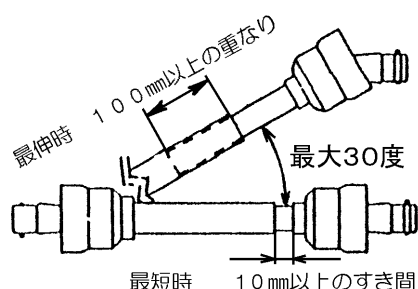


トラクタへの装着

2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取り付け順序
本機入力軸に取り付けてから、トラクタ
PTO軸に確実に取り付けてください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認
ジョイントの長さは旋回により変化します。
先にジョイントが長すぎないかを確認し、
長すぎる場合は、次図の寸法が確保できる
ように切断してください。



注意

作業時のジョイント角度は最大30度を
超えないように調整してください。
30度を超えるとジョイント破損の原因と
なります。

◆カバー回転止めチェーンで固定を
ユニバーサルジョイントのカバーが回転し
ないようにチェーンでしっかりと固定
してください。



3. セーフティチェーンの取扱い

◆セーフティチェーンの組付け手順
セーフティチェーン(以下チェーンと表記)
はさまざまなトラクタに対応するため、
長めのチェーンが付属しています。
トラクタ側のチェーンの取り付け位置にも
よりますが、直進時はチェーンが張られ、
旋回時にはチェーンが垂れる傾向にあり
ます。チェーンを取り付ける際には、
長さに十分注意し、余分なチェーンは
切断するなど走行の妨げにならない
ようにしてください。

[1] トラクタ側と作業機側の両方でボルト
ナットシャックル12を使用し、チェーンを
組付けてください。

(1) トラクタのけん引ドロワー周辺に
チェーンを組付けた場合



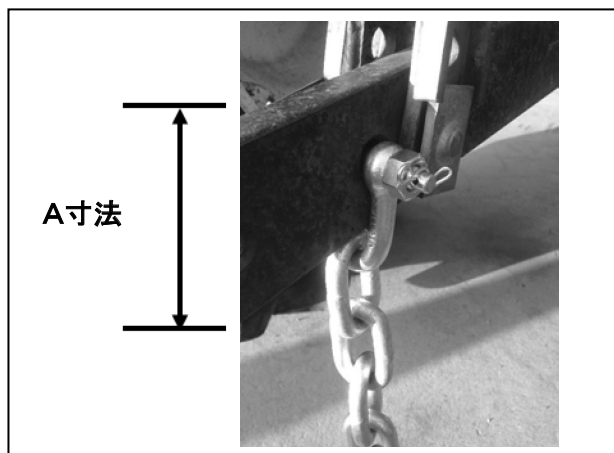
例1



例2

トラクタへの装着

(2) トラクタのロワーリンクにチェーンを組付ける場合は、次記A寸法の大きさを、ボルトナットシャックルを使い分けてください。



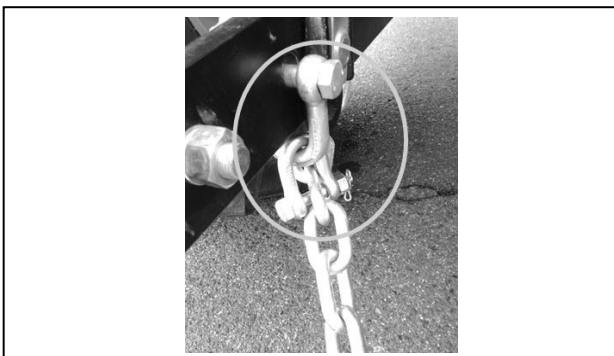
●ロワーリンクのA寸法65mm以下の場合

ボルトナットシャックル12を使用してください。

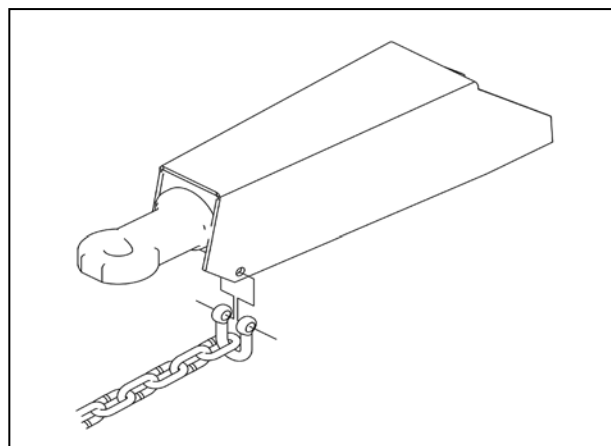


●ロワーリンクのA寸法65～95mmの場合

ボルトナットシャックル16と12を使用してください。



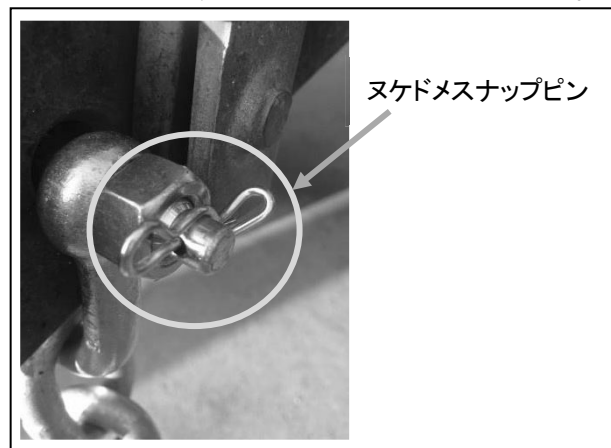
[2] 作業機側のチェーンの組付けにはボルトナットシャックル12を使用してください。



シャックル取付位置(ケンインフレーム)

注意

ボルトナットシャックルの抜け止めはワリピンを使用せず、ヌケドメスナップピンを使用して抜け止めを行ってください。



ヌケドメスナップピンは反時計回りに回しながら抜くと抜けます。



トラクタへの装着

4. 運行速度ステッカーの取扱い

◆運行速度ステッカーの貼り付け位置

速度制限表示(トラクタ用)をトラクタの運転席から良く見える場所に貼付けてください。

けん引時運行速度15km/h以下

※125020000

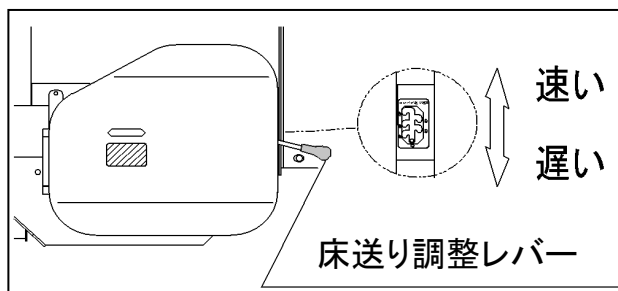
速度制限表示(トラクタ用)

運転に必要な装置の取扱い

1. 床送り操作レバーの取扱い

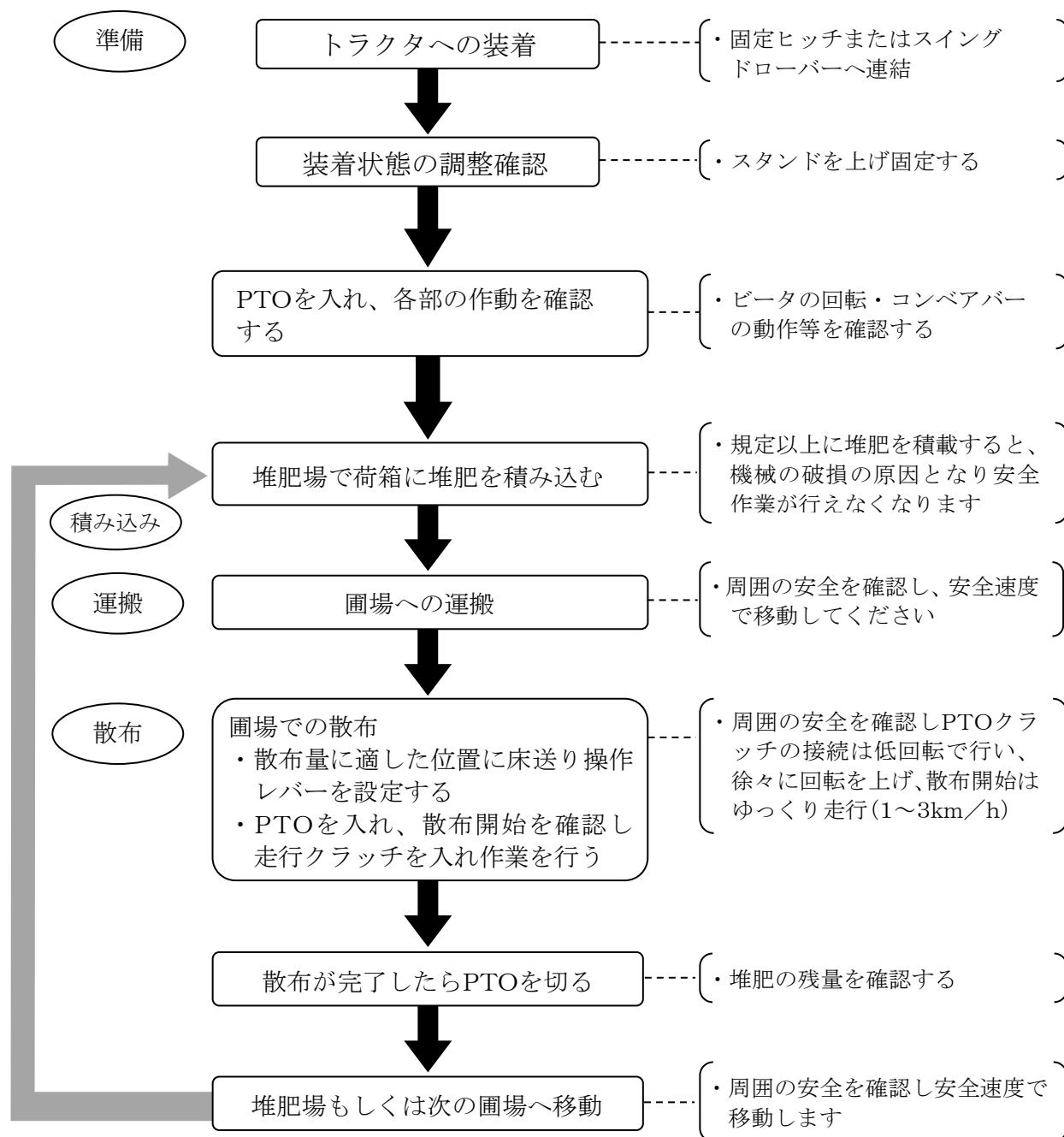
◆床送り操作レバーは、

堆肥の散布量を調整するレバーです
本機に装着している床送り操作レバー
は、次図のように5段階0～5に調整でき
るようになっており、0では堆肥は後ろ
へ送られずトラクタのPTOを入れても
散布されません。1から5まで順次、
後ろへ送られる量が多くなります。



作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 移動するときは

移動はスタンドを上げて固定してから行ってください。

警告

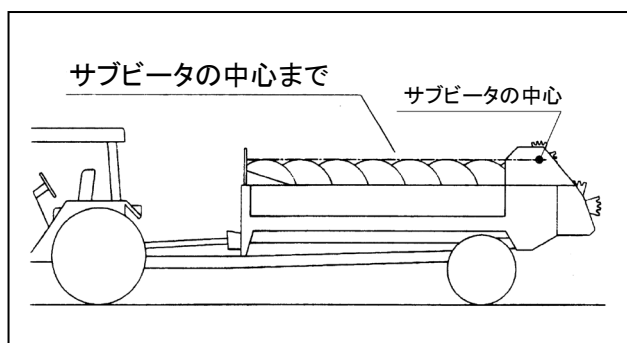
- ①本機を牽引しての運転は、周囲の条件に適した速度で行ってください。
絶対に急発進・急ブレーキ・急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅・内輪差に十分注意してください。

3. 堆肥を積み込むときは

堆肥を積み込むときは、トラクタの駐車ブレーキを掛け、本機に車輪止めをしてから行ってください。

堆肥の積み込みは、前から順に積み込むと散布時に堆肥がほぐれやすくなり、ビータに負担がかかりません。

積み込み高さは、サブビータの中心まで均一散布が行え、ビータに無理がかかりません。



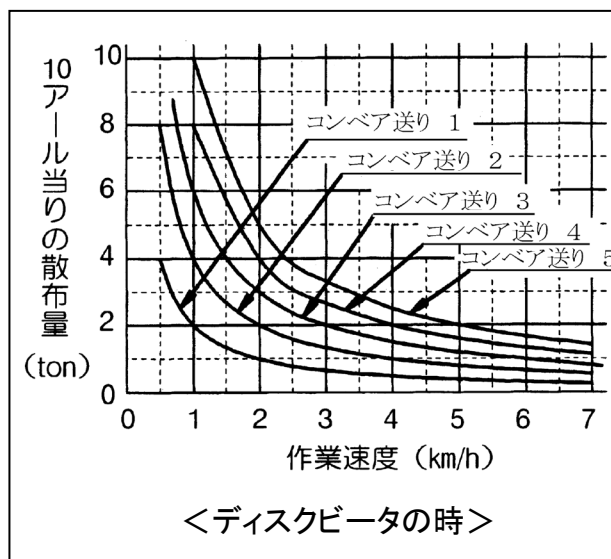
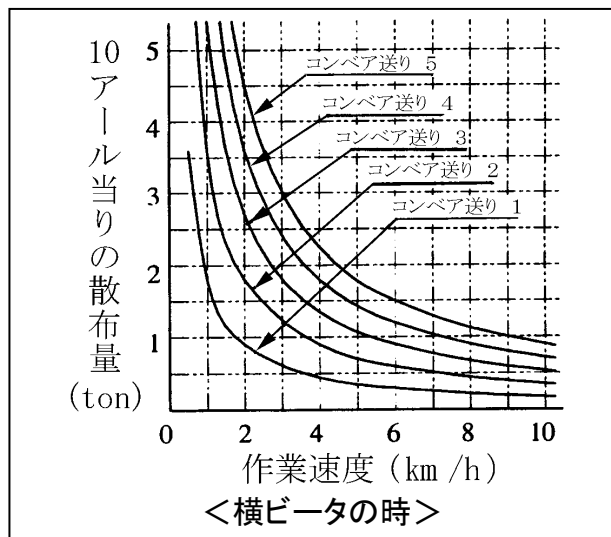
警告

- ①堆肥に石や木片が混入すると危険です。積み込むときに十分注意してください。
- ②規定以上の積み込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全走行・作業が行えません。十分注意してください。

4. 散布量の調整は

堆肥の散布量は、送りコンベアの速度と作業速度により調整します。送りコンベアの速度は、送り操作レバーで設定でき、「5」で最大送りとなります。

次図を目安にして送りコンベア速度と作業速度を決定してください。



注意

堆肥の種類や含水率等により散布量はかなり異なりますので、上図のグラフは参考資料としてください。

警告

回転中のビータ・コンベアバー・コンベアチェーンに巻き込まれると重傷を負います。手や足で絶対に触れないようにしてください。

作業方法

5. 散布作業方法について

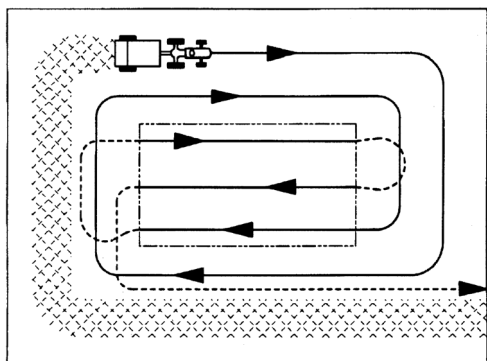
- ①床送り操作レバーを設定位置に入れ、PTOクラッチを入れてください。
- ②堆肥が本機後方に散布されるのが確認できたら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

⚠ 危険

走行開始時には、荷台に堆肥を満載しているため、バランスをくずしやすい危険な状態にあります。急激な走行クラッチの接続はやめてください。

注意

- (a)急激なPTOクラッチの接続は機械の破損の原因となりますので、やめてください。
 - (b)より均一な散布を行うため、散布中のトラクタの走行速度を一定に保つようにしてください。
- ③圃場での走行は、次図のように巡回しながら散布すると、均一な散布ができます。



⚠ 注意

散布作業に入る前には後方に人や動物がないことを確認してください。

6. 散布幅について

散布幅は堆肥の種類・含水率・ビータの回転速度・風などに影響されます。

一般的には重く含水率の高い堆肥の場合や、PTO回転速度が速いほど散布幅が広がります。

上記と逆の場合は、散布幅が狭くなります。

注意

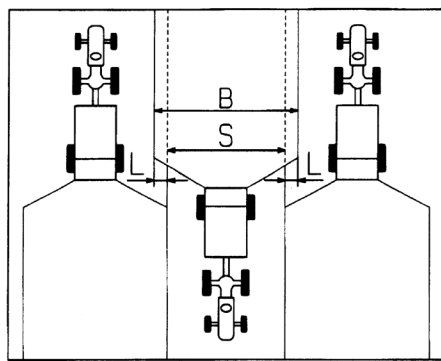
本機のPTO最大使用回転速度は、 $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ です。

この回転速度以上で使用すると本機の破損原因となります。

注意

逆転PTOを使用すると、本機を破損しますので使用しないでください。

同じ散布アタッチメントを装着していても、堆肥の種類によって散布幅が変化します。散布の適切な重複幅(L)をとって、作業を行うことが、均一な散布には重要です。



作業方法

重複幅の目安(完熟堆肥)

	横ビータ	ディスクビータ	
		最小散布幅設定時	最大散布幅設定時
S:有効散布幅 (m)	3.0～3.5	2.0～3.0	5.5～7.0
L:重複幅 (m)	0.5～1.0	0.5～1.0	1.0～3.0
B:最大散布幅 (m)	3.5～4.5	3.5～5.0	8～10

※堆肥の種類により異なります。

7. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行、急ハンドル禁止

等高線に対して直角方向に走行し、旋回は、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。

⚠ 警告

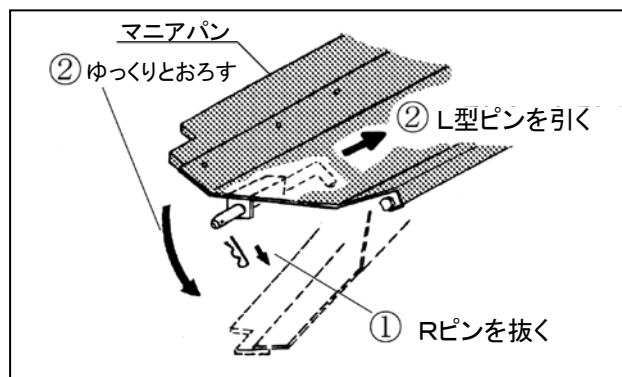
斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので絶対にしないでください。

8. 最後の散布

横ビータをご使用のとき、最後に残った堆肥を落とす場合は、次図のようにマニアパンを下げると最後まで堆肥を落とすことができます。

◆下げる手順

- ① R ピンを抜く
- ② L 型ピンを内側に引き、ゆっくりと下へおろす。



⚠ 警告

- ①マニアパンの上・下調整を行うときは、PTOを切りエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②堆肥の積載量が少なくなってきたときには、前方へ堆肥・小石等が飛散しやすくなるのでPTO回転速度は低速にしてください。

注意

移動・運搬・通常作業のとき、マニアパンは上げてください。

◆上げる順序

- ①マニアパンにL型ピンをセットできる位置まで上げ、L型ピンにセットする。
- ②L型ピンをRピンでとめる。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	ユニバーサルジョイント	組付けが完全か	22	
2	コンベアバー	摩耗・変形していないか	—	
3	コンベアチェン	摩耗していないか、張りは十分か	31	
4	床板	摩耗していないか、 穴等があいていないか	—	
5	アオリ	変形していないか	—	
6	タイヤ	パンクしていないか、空気圧は十分か	31	
7	床送り操作レバー	スムーズに動くか	25	
8	ビータチェンの張り調整	少し遊びのある程度に張る	31	
9	ビータ羽根	変形・摩耗・破損はないか	—	
10	ビータ羽根のボルト・ナット	緩み・ガタつきがないか	—	
11	マニアパン	スムーズに動くか	29	
12	シェアボルト	組付けられているか、 緩み・ガタつきがないか	32	
13	各部ボルト・ナット	緩み・ガタつきがないか	—	
14	各部への注油・グリスアップ	各部への給油は十分か	34	
15	各部の回転	ビータ・床送り等の回転はスムーズか	—	

以上について異常が認められない場合は、PTO回転速度を $450 \sim 540 \text{min}^{-1}(\text{rpm})$ まで徐々に上げ、5～10分間ならし運転を行ってから、作業を始めてください。

点 検 メ モ

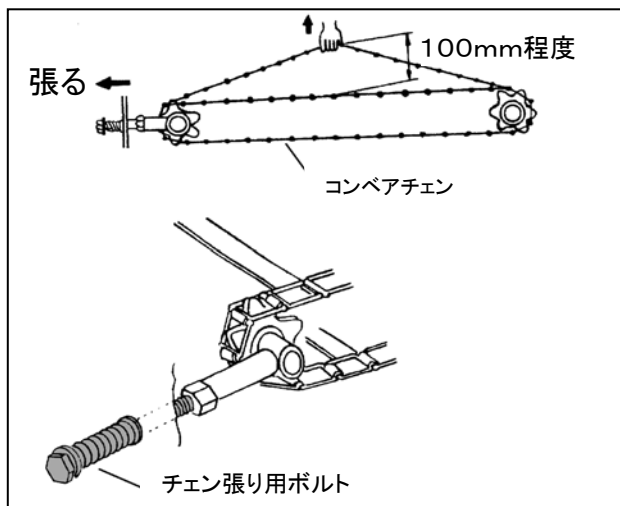
簡単な手入れと処置

！ 警告

- ①各部の調整をするときは、PTOを切りエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

1. コンベアチェンの調整

床送りのコンベアチェンは、長期間使用すると伸びが生じます。時々、張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は機体の前方にあるコンベアチェン張り用のボルトで調整してください。



注意

使用初期はスプロケットとコンベアチェンのなじみが悪く、いきなり使用するとコンベアチェンが切れる場合がありますので5～10分ならし運転をして、一度コンベアチェンの張りを点検してから使用してください。

2. 装備のタイヤと空気圧

本機に装着のタイヤは、チューブレスタイヤを装備しています。

空気圧は下記の通りです。

定期的に空気圧を点検してください。

常圧タイヤ内圧

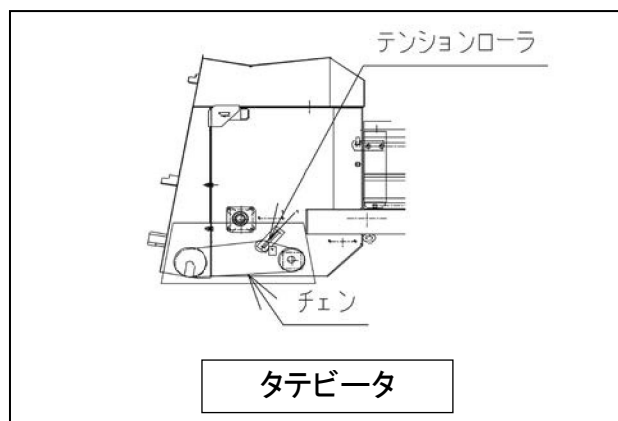
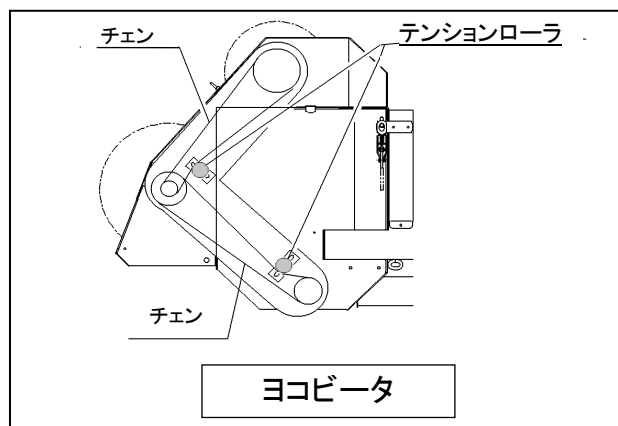
●DH3071・・・300kPa (3.0kgf/cm²)

！ 警告

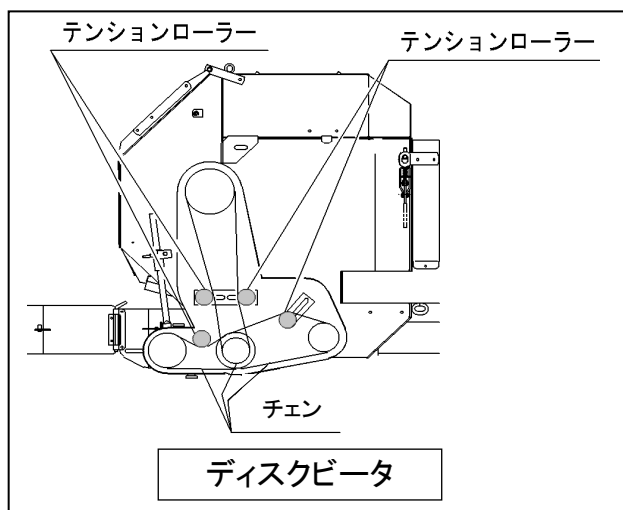
- ①タイヤに関係する作業を行う場合は、安全な場所で、必ず車輪止めをしてから行ってください。
- ②タイヤおよびホイールに関する修理は十分な整備施設を持つタイヤショップ等の専門店へご依頼ください。

3. ビータ駆動チェンの張り

テンションローラを締め付けているボルトを少し緩め、ハンマー等で動かし、少し遊びがある程度にチェンを張ってボルトを締め付けてください。



簡単な手入れと処置

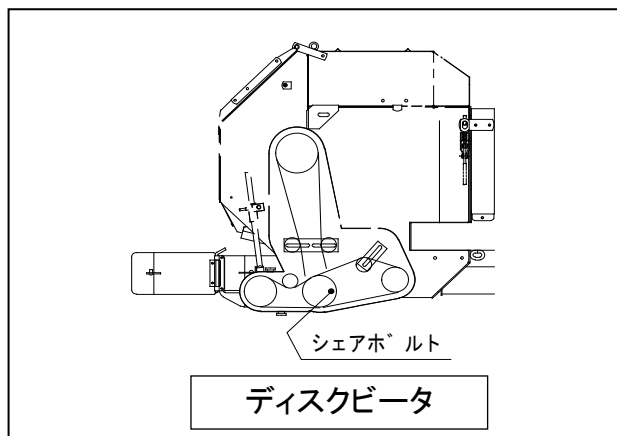
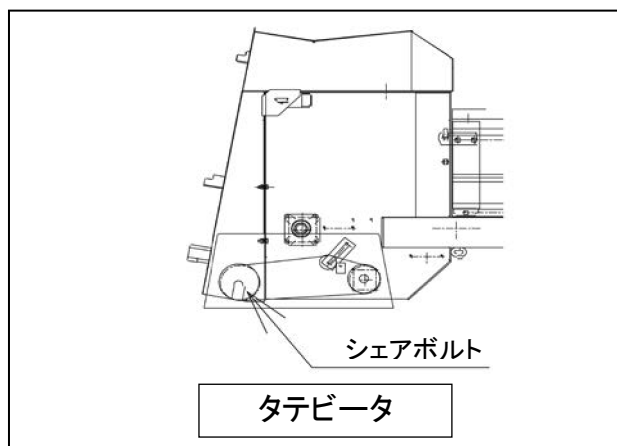
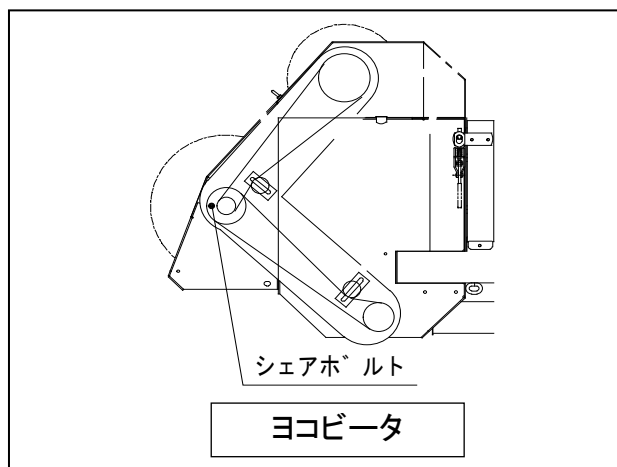
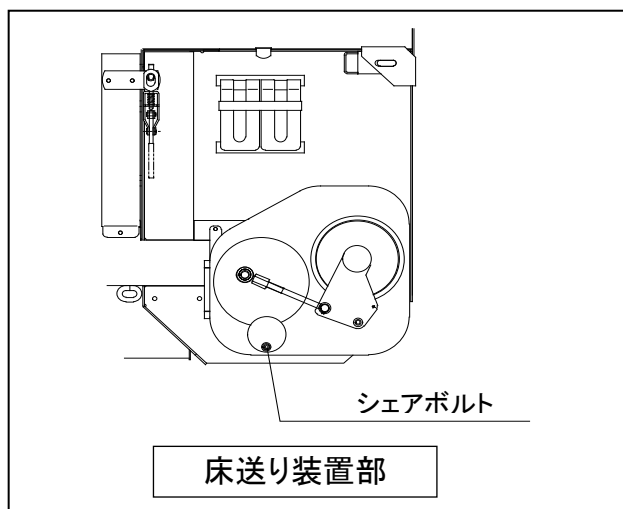


注意

チェンを張っているテンションローラーが摩耗しているときは交換してください。

4. シェアボルトの交換

床送り装置部・ビータ部に過負荷がかかったときにボルトが切断され、本体の損傷を防止します。



◆シェアボルトのサイズは下記の通りです

- ・床送り装置部
 - ボルト M6×25(8T)
 - ナット M6 ユルミドメナット
 } セット
- ・ビータ部(全ビータ共通)
 - ボルト M6×30(8T)
 - ナット M6 ユルミドメナット
 } セット

注意

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

簡単な手入れと処置

◆ シェアボルトが切断されたら

過負荷になっている原因を取り除いてください。

床送り装置部では、荷台に石等のかみ込み、ビータ部ではビータへの堆肥・ワラ等の巻き付き、小石等のかみ込みが原因となる場合がありますので、これらを取り除いてください。

◆ ボルトが切断されたら交換してください

切断されたボルトを除去して、ボルト穴を合わせてからシェアボルトとユルミドメナットを確実に締め付けてください。

！ 注意

シェアボルトの交換を終え、作業を再開する時は、試運転のときと同様にゆっくりとPTOを入れてください。

5. 堆肥について

- 堆肥はできるだけ完熟堆肥を使用してください。

注意

未完熟堆肥を使用すると機械の消耗が激しいだけでなく、作物に悪影響をおよぼしますので避けてください。

特に、長ワラ入りの生堆肥を使用するとビータへの巻き付きが発生し、機械を傷める原因となるだけでなく、均一散布が行えなくなる場合がありますので注意してください。

6. 日常の管理について

- 使用後は荷台およびビータ部に堆肥を残したまま放置しないでください。
放置すると本機が錆びる原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

7. 長期格納時の手入れ

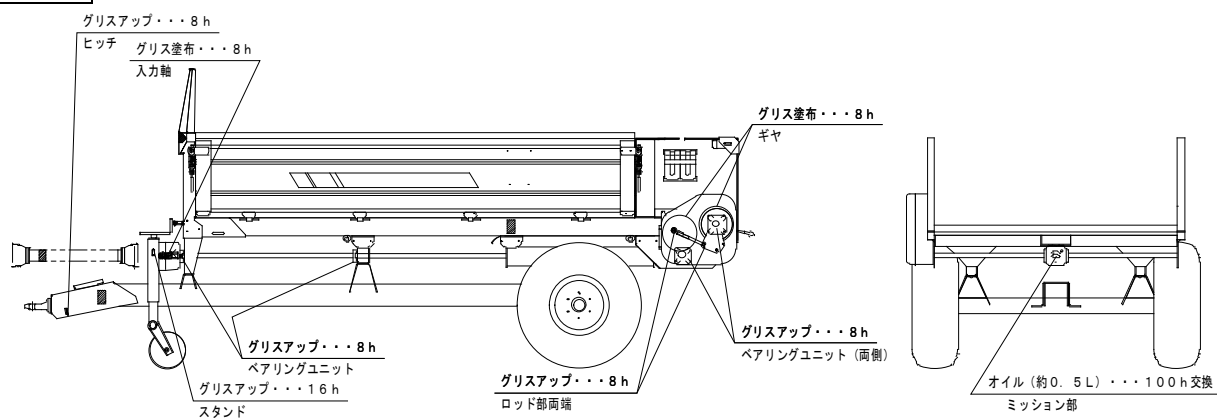
- 水洗いをして付着した堆肥等を落とし、異物を取り除いてください。
- 乾燥後は回転部に十分注油し、錆が出ないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料を塗り、錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときは締めてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦なところでタイヤに車輪止めをし、動かないようにして保管してください。

簡単な手入れと処置

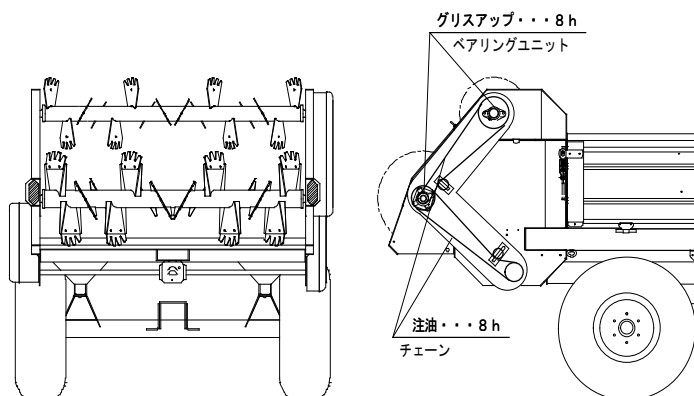
8. 各部への注油・グリスアップ

次図のところに指定時間(h)毎に注油・グリスアップをしてください。

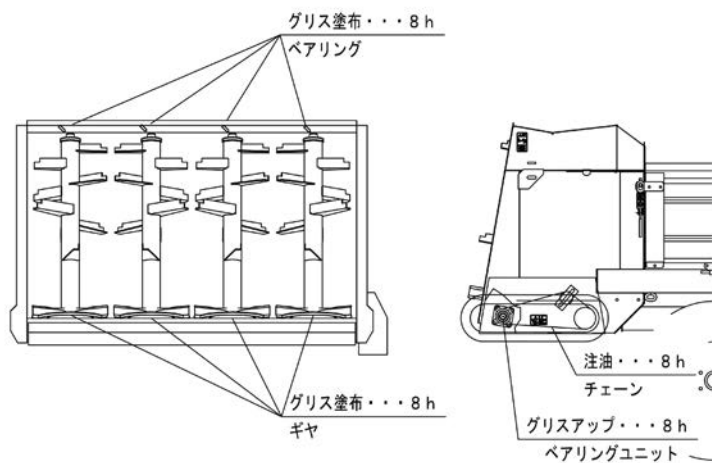
マニア本体



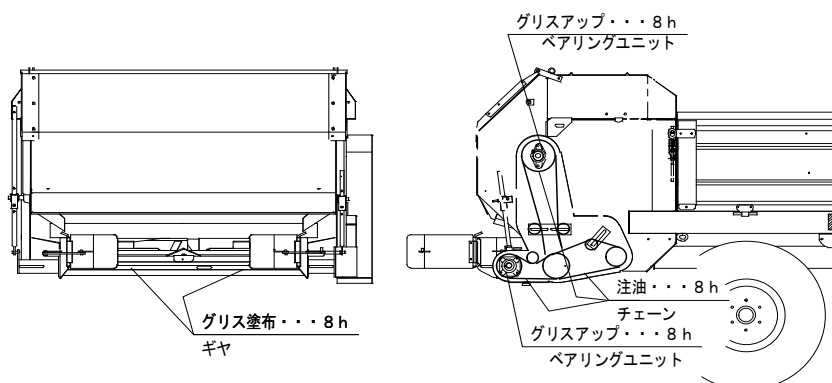
横ビータ



タテビータ



ディスクビータ



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
● 散布できない	● トラクタPTOが接続されていない	● トラクタのPTOを接続する	22
	● 床送りが動かない ・ 床送り操作レバーが「0」になっている	● 床送り操作レバーを任意の位置にする	25
	・ 床送り部のシェアボルトが切断している	● シェアボルトを交換する コード No. 011180060250 ボルト M6×25(8T)	32 36
	・ コンベアチェン・コンベアバーが変形・破損している	● 新しい部品と交換する コンベアチェン コード No. 116311922000 コンベアバー コード No. 116481340000	31 36
● 散布量が少ない	● 床送りの送り量が少ない	● 床送り操作レバーを送り量の多い位置にする	25
	● ビータに長ワラ・草等が巻き付き、散布されていない	● ビータに巻き付いている長ワラ・草等を除去する	—
● 散布幅が狭い	● ビータ羽根が摩耗・変形している	● 新しい部品と交換する	36
	● PTO回転速度が低い	● 適正PTO回転速度、最大540min ⁻¹ (rpm)まで回転速度を上げる	28
● 散布跡に濃淡がある	● 重複散布をしていない	● 有効散布幅に対し、適切な重複散布幅を設ける	28 ～ 29

付 表

1. 主要諸元

品 名		マニアスプレッタ		
型 式		DH3071	DH3071W	DH3071D
機 体 寸 法	全 長 (mm)	5, 290	5, 190	5, 660
	全 幅 (mm)	2, 000	2, 000	2, 020
	全 高 (mm)	2, 010	1, 940	2, 010
荷 台 寸 法 (mm)		3380×(1650~1740)×570		
地 上 高	側 板 高 さ (mm)	1,590		
	床 面 高 さ (mm)	1,020		
質 量 (kg)		1,270	1, 330	1, 310
適 用 ト ラ ク タ (k W { p s })		25. 7~58. 8 (35~80)		
駆 動 方 法		トラクタPTO駆動(回転速度540min ⁻¹ (rpm))		
最 大 積 載 容 量 (m ³)		4. 8		
最 大 積 載 質 量 (k g)		3,000		
散 布 幅 (m)		3. 5~4. 0	6. 0~11. 0	1. 5~10. 0
コ ン ベ ア 速 度 (m / 分)		1速 0. 8 ・ 2速 1. 6 ・ 3速 2. 4 4速 3. 1 ・ 5速 4. 0		
輪 距 (mm)		1,630		
タ イ ヤ サ イ ズ		11. 5/80-15 8PR		
装 着 方 法		牽引方式		
作 業 速 度 (k m / h)		3~6		
作 業 能 率 (分 / 1 0 a)		4~10	2~6	2~20

※型式末尾について ・なし:横二段ビータ・W:タテビータ・D:ディスクビータ付を示します。

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

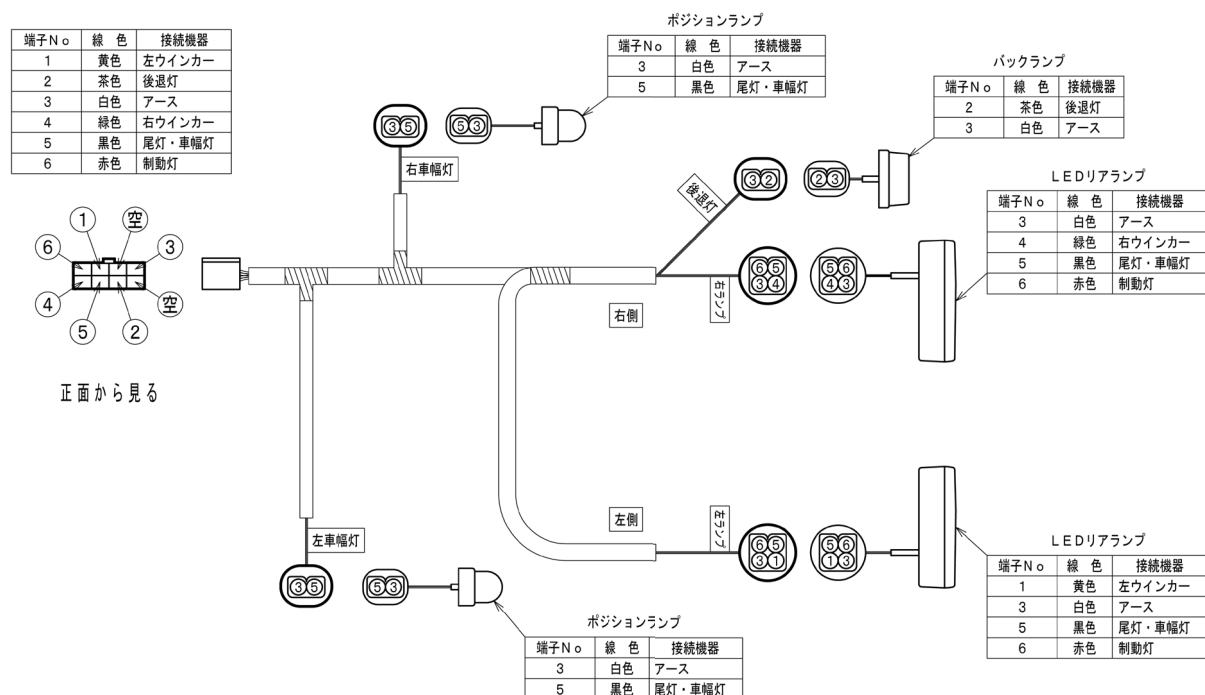
2. 主な消耗部品

品 名	部 品 コ ー ド	備 考
コンベアチェン	11631 1922 000	
コンベアバー	11648 1340 000	
シェアボルト	01118 0060 250	M6×25(8T)(床送り部)
シェアボルト	01118 0060 300	M6×30(8T)
ユルミドメナット	02311 4001 060	M6
メインビータハネ	32103 2241 000	

付 表

3. 配線図

◆保安部品



◆変換ハーネス

トラクタ側の灯火装置用ソケットが日農工規格で定めるトレーラ用接続コネクタ(CN8極コネクタ)ではなく、DIN規格品(7PDINソケット)の場合変換ハーネスを取り付けてください。

端子No.	線色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

端子No.	線色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

